

仏法の点火の清らかな日

駒沢大学 鈴木格禪

本日は大変おめでとうございました。

黒田御老師は私どもの宗旨の開祖であるところの瑩山禪師、道元禪師を通してひとすじにお釈迦様のところにつながつてゆくということを自分の根本にちゃんと持つておられます。宗教を通じて純粹に、まっすぐに、ひたむきにお釈迦様に還つていかれるということがご住職の念願であり信念であり生き方なのであります。そうしてそのために、今生かされている命の一滴残らず全部をそれにささげて、人のために、仏



法のためにつくし切つて一生を終わつてしまおう、そうお考えになつていらつしやる。

そのため、日本の仏教の宗旨の如何を問わず、志のあるすぐれた青年僧をすくつて、毎年世界各地の僧院、あるいは道場に派遣させ、勉強、あるいは仏縁を深めつつあります。これは大事業であります。心に思いながら何人も成し得なかつたまさに大事業を、独力で着々と推進されつつあります。大変な誓願^{せいがん}であります。驚くべき実行力であります。そういう誓願に燃える方丈様並びに奥様をご両親に持たれた子供さんたちの、今日は国際的な得度式であります。ご両親の血^ちが子供さんに流れ、その誓願が子供さんに生きてゆかないわけがない。仏法といふものが、国境を越え、民族を越えて聖なるひとつつの火となり炎となつて燃えさかつていく、今日はいわばその点火の清らかな日であります。長く懸念し、贊仰していきたいと願つてお

ります。

皆さんがどなたも仰せになりましたように体一杯でパーリ語をとなえて得度をうけられた四人のご子息様の、あの懸念な背中に、深く感動いたしました。

おめでとうございました。

